



# 東京の会通信

No.276

2018年1月1日号  
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する  
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marrow\_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

## 若い方の加入で活気ある東京の会に



東京の会の皆さま、  
全国のボランティアの  
皆さま、東京の会を支  
援いただき会報を購読  
されている皆様、あけ  
ましておめでとうございます。

いつも、東京の会の活動にご支援ありがとうございます。  
心から感謝申し上げます。

さて、東京の会の今年の活動を少し振り返ってみま  
すと、4年目となるドナー支援制度の自治体での策定  
の取り組みは、平成28年度11自治体、平成29年度24自  
治体で実行され、確実に実施自治体を増やしてきました  
。しかし、区部、市部の段階でもまだ半数にとどまっ  
ているのが現状です。

東京の会は、1日も早く全自治体で実施できる状況  
を作るために、未実施自治体のなかの24区市町議会に  
対し、陳情活動を行いました。結果についての集約は  
4月まで待たなければなりません、今回の陳情後、  
東京の会に問い合わせる自治体もあることから、  
各自自治体で来年度実施の検討が始まっていることがう  
かがえます。住民の命と生活、健康を守ることは自治  
体の使命です。来年度は、東京都全自治体がドナー支  
援制度を実施し、居住地による支援の格差がなくな  
ると同時に、平成27年度の都議会決議にあるように、ド  
ナー支援制度を国の制度として実施することを、都議  
会から国へ強く要請することを望みます。

献血ルームでのドナー登録推進活動は、東京の会  
の中心的活動の一つです。献血に来られた方の中から、  
呼びかけに応じて毎年100名以上がドナー登録してく

れます。この活動は骨髄バンクを支え、患者さんの命  
を救う最も基本の活動です。東京の会は、ルームでの  
説明をボランティアに頼るだけではなく行政が率先し  
て説明員を配置するよう求め、東京都に対して要望を  
続けています。東京の会から参加しているボランティ  
アも活動期間が長くなっており、参加者が多い今だか  
らこそ若返りも含めて大きく改善することが求められ  
ます。今後については行政の特段の配慮と多くの若い  
方たちが参加できるようにしていく必要があると思っ  
ています。

バラのかおりのコンサートは昨年で第25回目とな  
り、この5年間は固定した会場で開催されてきました  
が、地域の再開発により会場となってきた発明会館が  
取り壊されるため、次回からは使用できなくなしま  
した。公共の施設などは自治体関連の行事や地域の団  
体の取り組みが優先されるため、会場確保が極めて困  
難な状況です。当面は会場の確保に努めますが、会場  
を確保できない場合には開催の形態などを考慮して  
いく必要があるかもしれません。長く続けてきた経緯も  
あり、コンサートの灯を消さないためにあらゆる努力を  
していかなくてはなりません。

何点か述べてきましたが、今年も他の課題も含めて  
全力で取り組みます。東京の会通信を読んでいる方  
の中で、東京の会へ未加入の方はぜひ会員になっ  
ていただくようお願いします。また会員の皆様も、自  
分の身近な方、特に若い方に会員になっていただくこ  
とをお勧めください。活動の輪が幾重にも広がるよう  
願うとともに、会員の皆さまをはじめ、活動の中心  
となっている皆様のご健勝を願い新年のご挨拶と  
いたします。

### 日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成29年11月末日現在)

|           | ドナー(全国) | ドナー(東京) | 患 者   |
|-----------|---------|---------|-------|
| 登録者数(現在)  | 481,699 | 59,107  | 3,757 |
| 10-11月登録分 | 7,166   | 849     | 460   |
| 10-11月抹消数 | 3,310   | 391     | —     |
| 実質登録増     | 3,856   | 458     | —     |

※患者登録数のうち国内患者数は1,389人

### 患者とドナー登録・適合状況(11月末日現在)

|                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| ドナー登録受付者数(累計)   | 720,366人              |
| ドナー登録抹消者数(累計)   | 238,667人              |
| HLA適合報告ドナー数(累計) | 285,862人              |
| 患者登録数(累計)       | 52,501人               |
| HLA適合患者数(累計)    | 41,842人(患者累計数の79.7%)  |
| 非血縁移植実施数(累計)    | 21,403例(10-11月実施201例) |

## 「バラのかおりのコンサート」今年も開催!

11月3日、ピアノ三重奏による東京の会主催のコンサートが、昨年に引き続いて港区虎ノ門の発明会館ホールで行われました。早いもので最初の開催から26年目を迎えたことになります。この間、東日本大震災による一年間だけの中断がありましたが、毎年多くの方のご支援を得て、東京の会の最重要行事の一つとなつて四半世紀を経ることになりました。

これだけ長く続けてこれたのは、何と言っても立ち上げから毎年演奏者としてそしてプロデューサーとしてもご協力いただいていた、チェロ奏者の小澤洋介さんとヴァイオリニストの三戸素子さんの熱意なくしてはあり得なかったと思います。それは、白血病で若くして亡くなられたお二人の共通の親友への深い思いが、このコンサートを毎年新たな感慨を持って聞くものに響いてきたからだだと思います。今回もお二人とともに、ピアノ演奏には昨年と同じく高田匡隆さんにご協力くださり、文化の日の素晴らしい晴天の中、息の合った演奏をお聞きすることができました。



プログラムは、前半がフランクの「ピアノ三重奏曲第3番ニ長調作品13」とショスタコービッチの「ピアノ三重奏曲作品8」、休憩そして20分ほどのミニシンポジウムを行って、後半はベートーベンの「ピアノ三重奏曲第7番」いわゆる「大公トリオ」を第4楽章までと大変多彩で重厚な、しかし楽しい構成でありました。

また、お三方の懇切な解説が、素人の筆者などには大変興味深いものでした。三人の作曲家の生まれば18世紀後半から19世紀そして20世紀と時代を異にし、演奏曲の作曲された年齢も17歳から晩年までと違っており、さらにおかれた境遇もロシア革命直後の少年ショスタコービッチから、教会のオルガン奏者として地味な生涯を送ったフランク、そして孤独の象徴のようなベートーベンが実はその葬儀には3万人が参列した有名人というエピソードなど、それだけで伝記のオムニバスになりそうな気がします。ところが演奏をお聞きするとこれがまた予想と異なり、ショスタコービッチは苦悩に満ち、フランクは文字通りフランクでどこか明るく現代的、そしてベートーベンは実にカラフルなものでした。アンコールには、サイモンとガーファンクルの「明日に架ける橋」で、観客の拍手に答えてくださいました。

今年はまたミニシンポジウムでも新鮮な驚きがあり

ました。登壇されたドナー、患者の御経験者お二人が、いずれも東京都の市議会議員の現役の方でした。



青梅市議会議員の迫田晃樹さんは、議員当選直後に悪性リンパ腫を発症し、議会に出席しないうちに絶望的な病院生活を送ることになったとのことでした。ドナーの方から提供承諾の知らせを聞いた時には一条の光を見出したというお気持ちを率直に語ってくださいました。

一方、ドナー経験をお持ちの清瀬市議会議員の石川秀樹さんは、議会日程の中で、ドナーとして入院などによる欠席が許されるのか等、提供に至るまでのそれなりの迷いを率直にしかし時にユーモアをもって語られ、さわやかな印象を多くの方に与えてくださいました。

男性として初めてミニシンポジウムのコーディネートを務めた松阪一紀さんの司会ぶりも見事なものでした。今回、市議会議員の方が参加してくださったのは、三瓶代表はじめ東京の会の会員が各市を回って、ドナー支援制度に対する議会の賛同を得るための草の根の活動を積み重ねてきた成果だと思います。

ホールの外の廊下ではこれも恒例の中澤ナーセリーさんから頂いたバラや、会員の皆さん手作りのバラグッズが売られ、バラはあっという間に完売、グッズも所期の目的を達しました。観客は昨年よりは少なかったのですが、読売と朝日の両新聞社が事前に記事にしてくれたこともあり、154名の入場者が来てくださいました。

今年は、会場が発明会館ホールでした。平成25年以来ここが毎年確保できたのですが、残念なことに来年には地域再開発のためおそらく取り壊されることになりそうです。会館の職員の皆様もこのコンサートには特に思いを込めて協力してくださいました。来年には新たな場所でまた、コンサートを開くことを心に刻んで家路についた一日となりました。(及川 耕造)

### ステキな音楽と啓発活動のタイアップ

11月にしてはポカポカとした良いお天気の祝日、バラのかおりのコンサートが開かれました。

ちょうどこの日は、アメリカの大統領親子来日が重なり、大使館のある会場近辺は警備で固められ物々しい様子でしたが、対照的に開演直前の発明会館はコンサートを楽しみに来場された皆さんの明るく穏やかな

雰囲気包まれていました。

私は数年ぶりに準備から参加させていただきましたが、当日までの事前準備、朝から開演までのスケジュールリングが段取りよく組まれていた事にとってもびっくりしました。去年よりもさらに良いコンサートにしたいというみなさんの強い気持ちがうかがえました。手作りのバラグッズもキレイに並べられ、お店のようで素敵でした。開場直後からお客様が見え始め、若い方から年配の方まで、皆の声かけの成果で幅広い年齢層の方がたくさんいらしていました。

コンサートはチェロの小澤洋介さん、バイオリンの三戸素子さんと、昨年に引き続きピアノの高田匡隆さんのアンサンブルでした。いつも曲の作者や時代についてそれぞれが詳しい説明をしてくださいますが、私はこの時間が大好きです。曲が作られた背景を思い描きながら聴き入る事ができ、今年も表現豊かなとても素晴らしい演奏でした。

シンポジウムも、緊張されながらも優しくゲストをリードする松阪さんの司会のもと、公職につかれてい

る患者さんとドナーさんのお話でした。議員に当選してすぐに発症してしまい移植で元氣になられた迫田さん、議員として忙しく働かれている中でも決心してドナーになられた石川さんのお話はとても心に残るものでした。

主人はこのコンサートには初めての参加でしたが、プロの本格的な演奏やお二人のお話に大変感動。ステキな音楽と啓発活動のタイアップをもっとたくさんの人に伝えていきたいそうです。

ここ数年会場をご提供いただいていた発明会館での開催も、閉鎖に伴い今年で最後。官庁街ですがお休みの日はあたりも静かで、重厚で立派なホールでした。今までありがとうございました。

小澤さん、三戸さん、東京の会のボランティアの思いで25回も続いているこのコンサートですが、東京は会場の確保が難しく、来年のコンサートの実施が危ぶまれています。なんとか皆の力を合わせ続けていかれる事を願っています。

(石崎 友子)

## プルデンシャル生命のボランティアデーで登録説明会

10月14日、プルデンシャル生命第5支社で登録説明会が開催されました。当日はプルデンシャル生命のボランティアデーで、どのような活動しようかというプルデンシャルさんの社員の方からの相談に、大谷貴子さんが『やはり登録会でしょう』と答え、実現したのです。

大谷さんの司会で、ドナーの大橋一三さん・説明員の若木換さん・中谷光子、元患者の高澤さんご夫婦の6人が参加して、午前9時から説明会が始まりました。患者さんは奥様で、ご主人はソニー生命さんの社員さん、つまりプルデンシャルさんとは同業他社の方ですが、みなさま気持ちよく受け入れてくださって、約1時間半それぞれの体験を語り、骨髓バンクの重要性を知っていただきました。(編集部注:高澤道子さんに「患者からのメッセージ」をお寄せいただきました。(P.4)併せてご覧ください。)

大谷さんは『箱根駅伝でプルデンシャルさんの会社ぐるみでの応援』、高澤さんは『発病してびっくり仰天、でもバンクに登録したら程なくドナーが見つかり嬉しかったこと』、大橋さんは『2回提供をしたこ

と、自分と箱根駅伝のかかわりなど』、私は『ずーと骨髓バンクの活動をして来た中で娘が発病し、

まさか自分の身内がこういう病にかかるとは思っても見なかったこと』などを話しました。

最後に大谷さんが持参した、骨髓移植前に卵子や精子保存をし、その後赤ちゃんに恵まれた方達の素敵な赤ちゃんの写真がパネルに何枚も映し出され、本当に感動的でした。

約50人の方が参加し、熱心に話を聞いて下さいました。チャンスをお配りし、これを持って献血ルームに行けばすぐ登録できるとお伝えしたところ、終了後に多くの方が有楽町献血ルームに移動して献血やドナー登録をされ、今日は献血や登録はしないという人はおよそ1時間街頭で私たちと一緒に呼びかけをしました。とても寒い日でしたが、小さなお子様連れの方もいて、頭が下がりました。本当にありがとうございました。

(中谷 光子)



## 感謝の気持ちの届け先

高澤道子

年末にひいた風邪が治らないまま年が明け、原因不明のはき気、耳鳴り、倦怠感に長いこと悩まされておりました。紹介された大きな病院の女医さんが初対面の私たちを前に立ち上がり、丁寧に頭を下げた時、何を言われるのだろうかという嫌な予感に身構えたことを覚えています。

「急性骨髄性白血病」

骨髄移植なしでは非常に厳しい状況とのこと。即入院と言われ、すぐに抗ガン剤治療が始まりました。

骨髄バンクから送られてきた資料を見ましたが、移植後の生存率の低さに愕然とする思いでした。病名を告げられた時よりも遥かに強い衝撃でした。治療法があるという喜びとは程遠く、移植したら死ぬかもしれないという恐怖に毎晩押しつぶされそうになりました。必死に説得しようとする主人と、気持ちがまったくついていけない私。どうしたらいいのかわからないまま毎日が無為に過ぎていきました。

そんな中、戴いた本の中で、ある方のことを知りました。移植を待ちながら骨髄バンクの設立に貢献されたにも関わらず、自らはドナーが見つからずに亡くなったその方は、どんなに無念だったことでしょう。他にも骨髄移植を望みながらも叶わなかった先人たちの思いを知るにつけ、自分の悩みは贅沢だと初めて気づいた次第です。

怖しさがすべて消え去った訳ではありませんが「自分は生きるチャンスをもらった。」と思えるようになり、漸く病気と向き合うことが出来るようになりました。

あれから4年が経ち、驚く程の回復ぶりで普通に生活しています。先進の医療を受け、沢山の友人知人に励まされ親族に支えられここまで来ることが出来ました。

何よりも、ドナーさんがくださった骨髄液が、健康な私をつくり続けているのです。移植後、お手紙をやりとりしたその方は30代の男性で、ドナーになることをとても迷われたということです。家族を持ち、子どもが2

人できた今、もしも自分に何かあったら、と長い時間悩まれたそうです。でももし断ったら、この人が座っている電気椅子のボタンを、自分が押してしまうことになるのでは…と考え決心して下さいました。どんなに感謝してもしきれない方。実は私にとっては最後まで残ってくれたたったひとりのフルマッチドナーでした。彼の勇気ある決断により、私は今、こんなに元気に生きています。



順調な回復をたどる今、お世話になった都立駒込病院の血液内科の、患者と家族の会である「つつじの会」のお手伝いをしています。年4回のおしゃべり会で楽しく交流したり、先生方や医療関係者による勉強会やイベントなど有意義な活動に楽しく参加しています。同じような経験をした人たちと話をすることで私自身も癒される大切な居場所になっています。今後も多くの人に知ってもらい、活動に参加してもらえるように広報していくつもりです。

病を得て「社会的弱者」になった今、まわりの風景は変わりました。お年寄り、障害者、車椅子に乗った人……。とても目につくようになり、積極的に声を掛けるようにしています。この間、電車で席を譲ったおばあさんは、私にアメをくれました。腰が痛くてつらいけどどうせ座れないだろうと諦めながら乗ってきたそうです。とても喜んでくださって、私まで嬉しい気持ちになりました。

目が覚めた時、外を歩いている時、嬉しいことがあった時、ふと「生きている」ことを実感します。病気前には決して意識することがなかったこの「生きている」を感じるとき、ドナーさんへのあふれ出てくる感謝の気持ちをそんな形で表すことが出来たなら、彼もきっと喜んでくれるに違いないと信じている毎日です。

### 東京ドナー登録会予定(1月)

1/14 (日) 三軒茶屋ふれあい広場 (世田谷区)

1/24 (水) 25 (木) 26 (金) 東京都庁二庁ホール (新宿区)

# 東京雪祭2017、今年も代々木公園に雪が降りました!

今年で7年目を迎える「SNOWBANK PAY IT FORWARD」は、来場者数 11月11日(土) 18,000人以上・11月12日(日) 26,000人以上(代々木公園調べ)を迎え、大盛況の2日間でした。初日は説明員として 2日目は記録係としての参加でした。

会場内では、スノーエリア・ライブエリア・アートテントプロジェクト・ワークショップ・スケートボード・BMXなど沢山のイベントコーナーが準備されました。プロのスノーボーダーが雪面でその腕を競ったり、雪の斜面や広場で子供たちが冬到来の前に雪遊びを楽しんだり、テントの中でゲームやワークショップを体験したり、ステージの上ではイベントに協賛したミュージシャンがライブの演奏を披露したりと、盛りだくさんのプログラムです。

その中に献血・骨髄バンクの登録会場も設置されていました。日赤から献血バスが2台用意され、東京の会をはじめとした首都圏の骨髄バンクボランティアが各日12名説明員として配置され、説明員以外のボランティアとSBPIF実行委員の方々が絶えず「献血協力」と「骨髄バンクドナー登録」を声を限りに呼び掛けました。

後日、献血実施数 214名・骨髄バンクドナー登録 104名(受付146名)と、今までのこのイベントで一番多くの献血とドナー登録ができたことが報告されました。

会場を見渡せる歩道橋から、身元が判らない様にタスキを外して写真を撮っていると、「あっ!フェスやってんじゃない」「えっ雪!!マジで」「スノボだー」「believe my eyes」「やばいやバイ」「これ本物だよ」など 見物する人達から



次々に興奮の声が聞こえました。人混みはあまり好きでない自分も44,000人以上(延べ入場者)もの優しい人々と一緒に 秋イベント「東京雪祭2017 SNOWBANK PAY IT FORWARD」を満喫して凄く楽しい時間を過ごしました。(鳥羽 雅行)



## 東京雪祭2017、説明員デビューしました!

11月11日、12日に開催された「東京雪祭2017 SNOWBANK PAY IT FORWARD」に説明員として参加しました。今年が初めての参加で不安もありましたが、いざ始まってみると献血や骨髄バンクへの関心の高い方が多く、張り切って活動することができました。

受付開始後より途切れることなく多くの方が献血に来て下さり、骨髄バンクのブースも一時は説明スペースが埋まるほどでした。「骨髄バンクの話だけ聞きたい」という方もいらっしゃいました。幅広い年代の方にご協力いただきましたが、このイベントでは20代30代の登録が多かったように思います。近年、若年層の献血者数は減少の一途をたっています。若者の献血離れが叫ばれる中、献血会場を訪れ私たちの説明も熱心に聞き質問して下さいの方が多くとても嬉しく思いました。



また、このイベントでは他県の説明員との交流も行うことができました。情報交換をおこなう中で新たな学びもあり、分かりやすい説明が出来るよう今後より一層精進していこうと思っています。

最後になりましたが、2日間で献血214人、骨髄バンク登録104人という成果は多くの方々のおかげです。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。たくさんの方の思いが患者さんに届きますように! (亀田 玲奈)

## 心のこもったご寄付ありがとうございました。(2017.10.16~12.15)

中谷哲郎さん 10,000円/武田みち子さん 3,000円/吉野洋美さん 5,000円/笠原正子さん 3,000円  
岸康彦・清子さん 20,000円/中森立子さん 10,000円/田井潤蔵さん 2,000円/竹谷内紀子さん 3,000円  
外戸口則子さん 10,000円/南川英則さん 3,000円/中川里枝子さん 2,000円/高橋いずみさん 2,000円  
マルゼン窪一昭さん 3,125円/武正章さん 10,000円/大貫洋二さん 7,000円/宮坂祐輔さん 7,000円  
佐藤淳子さん 2,000円/河村朝子さん 10,000円/及川耕造さん 35,000円/竹崎恵子さん 30,000円  
奈良誓夫さん 5,000円/東京の会忘年会一同 4,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

# 編集者 雑記

▼日本骨髄バンクが作成のドナー登録を考えている方に手渡し読んでもらう説明書「チャンス」には、2年前より、「『再生医療用iPS細胞ストック』への協力について」と言う説明とドナーからの意思表示が必要な項目が加わりました。骨髄バンクのホームページQ&Aには、「骨髄バンク事業では、移植が必要な多くの患者さんを救うため、京都大学iPS細胞研究所が企画する『再生医療用iPS細胞ストック』に協力することにいたしました。」とあります。

▼ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授が所長を務める京都大学iPS細胞研究所では、再生医療に使用可能なiPS細胞ストックの提供を開始しています。iPS細胞とは、皮膚や血液などの体の細胞に初期化因子を導入して作製される細胞で、ほぼ無限に増殖でき、神経細胞や筋肉細胞など、体中すべての細胞に分化できる可能性を持っています。研究機関や企業に広く提供するためには、検査済みのiPS細胞を増やしてストックすることが必要です。このiPS細胞を他人に移植する場合、HLAの型が合わないとは拒絶反応が起きてしまいます。これは、骨髄移植医療でのドナーと患者のHLA型の一致と同じような仕組みだと言えます。

▼再生医療用のiPS細胞を製造・備蓄するに当たっては、拒絶反応が起きにくいタイプのiPS細胞を集めなければならず、そのため特殊なHLA型を持つドナーを集める必要があります。HLA型は父親と母親からそれぞれ子供に受け継がれますが、同じHLA型を父親と母親から受け継いだ場合にその子供のHLA型は「HLAホモ接合体」と呼ばれ、拒絶反応が起きにくいタイプのiPS細胞となります。HLA型は数万種類もの組み合わせがあるので、HLA / A座-B座-DR座の3座においてそれぞれ「HLAホモ接合体」の

ドナーは、国民の約2%~4%と言われています。

▼この貴重な「HLAホモ接合体」を探すために、多くのHLA型の情報を持っている日本骨髄バンクが、iPS細胞を細胞移植医療へ応用するための極めて重要な基盤構築となる研究に協力することとなり、ドナー登録する場合にすべてのドナーにこの研究に協力するかどうかの意思表示をお願いすることになっています。

▼山中伸弥所長のインタビューでは、「現在、日本骨髄バンクや日本赤十字社と連携して、拒絶反応が起きにくい型を持つ人を探し、日本人の約50%をカバーする約20人の提供者を確保した。これで日本人の2人に1人と合わせられることになり、医療現場にとっては非常に大切なことである。」と語られています。しかし今後さらに多くの人に提供できる型を準備するための提供者探しはだんだん難しくなります。日本人に一番多いタイプの「HLAホモ接合体」のiPS細胞があれば日本人の約20%に対して拒絶反応が起きにくい細胞移植治療が可能ですが、さらに特殊なHLA型を集めねばならず、日本人80%をカバーするためには75種類の「HLAホモ接合体」が必要となるからです。

▼京都大学iPS細胞研究所では、平成34年までに75~150種類のiPS細胞を作製することを目指しています。そのためにも、今後も日本骨髄バンクでドナー登録した方へのご協力を継続して要請することとなります。該当するHLA型をお持ちの方には、京都大学iPS細胞研究所から直接ご連絡し、ご協力がいただけるのであれば個別対応となります。また協力したくない方は、あらかじめ日本骨髄バンクへ連絡いただければ「拒絶反応が起きにくいHLA型」をお持ちであってもご案内はされません。

▼iPS細胞は、ほぼ無限の自己複製能を持っています。今後さらに「HLAホモ接合体」由来のiPS細胞ストックを作製し厳密な品質管理をおこなうことで、この医療用iPS細胞ストックから分化誘導した細胞を用いて多くの傷病に再生医療が提供されることが可能となります。骨髄移植だけではなく、広く再生医療に活用されて多くの患者さんが元気になる時代が早く訪れる事を祈ります。(A)

## 東京の会 「1月、2月定例会」 のお知らせ

1月27日(土)、2月24日(土)午後5時00分より  
★昨年8月より場所が変わりました。ご注意ください!★  
会場:全国骨髄バンク推進連絡協議会事務所  
東京都千代田区東神田1-3-4 KTビル3階  
※都営地下鉄新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分(A1出口)  
※都営地下鉄浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分(A1出口)  
※東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分  
※JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※3月定例会予定・3月24日(土)午後5時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

## 3月会報発送 「おりおり」のお知らせ

2月の「おりおり」はありません!  
発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

3月3日(土)13時00分より  
※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。  
場所:品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8)  
JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分  
※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※2018年5月「おりおり」予定・5月5日(土)13時00分より